

桂枝茯苓丸が奏効した 耳鳴の一症例



呉 明美 先生

福井大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2001年 福井医科大学(現 福井大学)医学部 医学科 卒業
福井医科大学医学部 耳鼻咽喉科 入局
2003年 大阪医科大学医学部 耳鼻咽喉科
2004年 福井大学医学部 耳鼻咽喉科
2005年 福井大学大学院 医学研究科 入学
2007年 福井大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
2009年 福井大学大学院 卒業 博士号取得、福井赤十字病院 耳鼻咽喉科
2012年 福井大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

はじめに

耳鳴は外部の音がないにもかかわらず音知覚を生じる現象で、日常診療でしばしばみられる一般的な症状である。耳鳴に対して数種類の西洋薬が使用されるが、効果がないことがよくある。一方、耳鳴患者の証に応じて漢方薬を処方することで奏効する症例は少なくない。

図1 症例 75歳 女性

現病歴

X-2年春から左耳鳴が出現。X年1月初めに前医で後鼻漏に対してフェキソフェナジン塩酸塩錠、葛根湯加川芎辛夷を処方されたが、左耳鳴が増悪し、1月26日に当科を受診した。

既往歴

不安障害、高血圧、脂質異常症、両側白内障(左眼は術後)、両側ぶどう膜炎(小康状態)

内服薬

ヒソプロロールフマル酸塩錠、エチゾラム錠、塩酸セルトラリン錠、アトルバスタチンカルシウム水和物錠

標準純音聴力検査(4分法)

右 22.5dB、左 17.5dB

現 症

身長: 151cm、体重: 53kg、BMI 23.3

東洋医学的所見

舌候: 微白苔
脈候: 右寸・関・尺 やや浮弦按じて渋
左寸・関 やや浮弦按じて渋、尺 やや沈按じて渋
腹候: 心下堅、胸脇苦満、臍上悸、臍下悸、やや小腹不仁

症 例

症 例: 75歳 女性。

主 訴: 左耳鳴、後鼻漏。

現病歴・既往歴: X-2年春から左耳鳴が出現し、X年1月初めに前医で後鼻漏に対してフェキソフェナジン塩酸塩錠と葛根湯加川芎辛夷を処方されたが左耳鳴が増悪し、1月26日に当科を受診した。耳鳴はガーと持続的に鳴っている。

現症・東洋医学的所見: 図1に示す。

図2 臨床経過

2月16日(第2診)

- 柴胡加竜骨牡蛎湯を3日間服用 → 左耳鳴が治まったが、胃痛になり服用を中止した。漢方薬の顆粒剤は飲みにくく、錠剤希望。
- 副鼻腔CT 慢性副鼻腔炎(-)
- 東洋医学的所見
舌候: 微白苔、紅点、舌下静脈怒張(+)
脈候: 両寸・関 やや浮弦按じて渋、
両尺 やや沈弦按じて渋
腹候: 軽度心下痞硬、臍上悸
瘀血として、クラシエ桂枝茯苓丸(EKT-25)
18錠/日(分3)×14日分処方



初診時~前回まで
イライラ、つかかる感じ

3月16日(第3診)

- 桂枝茯苓丸18錠/日は多いと自己判断し、9錠/日を服用 → 左耳鳴は改善傾向、胃痛なし。
- 頭部MRI 腫瘍など認めず。
- ぶどう膜炎と白内障で眼科に通院中
→ 桂枝茯苓丸の服用開始後、視力が若干改善。



今回初めて
穏やか

→ その後もクラシエ桂枝茯苓丸(EKT-25)9錠/日(分3)の服用を継続。左耳鳴は変動はあるが小さくなり、後鼻漏も気にならなくなった。夏になり、内服すると汗をかくようになったので廃薬・終診。

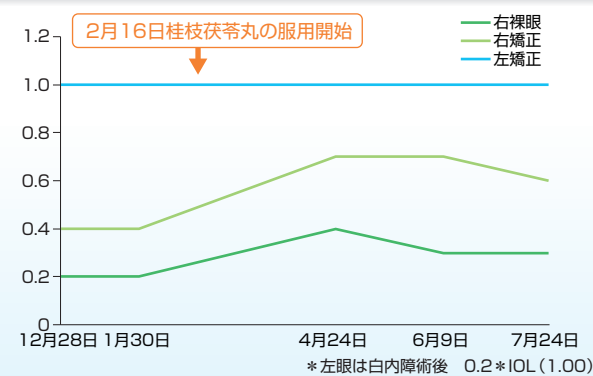
臨床経過(図2)：気逆、肝鬱、腎虚として、柴胡加竜骨牡蛎湯エキス顆粒 5g/日(分2)を14日分処方した。

2月16日の再診時、柴胡加竜骨牡蛎湯の3日間服用で左耳鳴は治まったが、胃痛のため服用を中止したところ、左耳鳴が再燃した。また、漢方の顆粒剤は飲みにくいと、錠剤を強く希望された。副鼻腔CTで副鼻腔炎は認めなかった。舌候にて舌下静脈怒張と紅点を認め、洪脈であったことから、瘀血としてクラシエ桂枝茯苓丸(EKT-25) 18錠/日(分3)を14日分処方した。

3月16日の再診時、自己判断で桂枝茯苓丸の服用量を9錠/日にされていたが、左耳鳴は改善傾向にあった。頭部MRIでは腫瘍などは認めなかった。桂枝茯苓丸の服用による胃痛はなく、自身に合っているという印象をお持ちであった。ぶどう膜炎と白内障で眼科に通院中だが、桂枝茯苓丸の服用を開始してから視力が改善しているとのことであった(図3)。さらに、初診時から前回まではイライラして突っかかるような受け答えをしていたが、今回は初めてニコニコと穏やかな会話をされたことが印象深かった。

その後もクラシエ桂枝茯苓丸(EKT-25) 9錠/日(分3)の服用を継続した。左耳鳴は、変動はあるが小さくなり、後鼻漏も気にならなくなった。気候が暑くなり、桂枝茯苓丸の服用で汗をかくようになったとのことで廃薬・終診とした。

図3 視力検査の経過



考察

代表的な駆瘀血剤である桂枝茯苓丸は『金匱要略』婦人妊娠病篇が出典であり、瘀血のある慢性化した病態(癥病)には桂枝茯苓丸を用いて瘀血をとる(図4)。

桂枝茯苓丸の構成生薬のうち、桂皮(枝)・牡丹皮は行血、芍薬は帰血、桃仁は血の質的变化に働き、茯苓は結果的に生じる水を捌く(図4)。瘀血による血の上衡が耳鳴の原因の場合は、駆瘀血剤を使用する。

本症例では、舌下静脈怒張、洪脈の瘀血の所見が認められ、慢性化していたことから桂枝茯苓丸を処方したところ奏効した。

図4 桂枝茯苓丸

古典から

婦人宿癥病有り…(中略)…癥瘕の害と為す。…(中略)…坏也。血止らざる所以の者は、其の癥去らざるが故也。当に其の癥を下すべし。桂枝茯苓丸之を主る。
(瘀: 瘀血のこと)

『金匱要略』婦人妊娠病篇

桂枝茯苓丸の構成生薬と作用

生 薬	作 用
牡丹皮・桃仁・芍薬	活血化瘀
牡丹皮	行血
芍薬	帰血
桃仁	瘀血を質的に変化させる
桂皮(枝)	脈外の気を推進し、脈中の流れを改善する
茯苓	血中・絡中の水をとる、血中の水を動かす

桂皮・牡丹皮は行血、芍薬は帰血、桃仁は血の質的变化に働く。茯苓は、結果的に生じる水を捌く。

江部 洋一郎著「経方医学5」より

まとめ

左持続性耳鳴と副鼻腔炎を認めない後鼻漏に対して桂枝茯苓丸を処方したところ奏効した。桂枝茯苓丸の服用開始後から、白内障とぶどう膜炎の既往のある未手術の右眼視力に若干の改善を認めた。

Discussion

木村：患者さんご自身で服用量を調節されていますが、高齢者の投与量についてご意見をお聞かせください。

呉：本症例は、錠剤を強く希望され、さらに半量とされましたが、それでも症状の改善が認められました。患者さんの年齢や体力など個々にあわせた適正な減量を考える必要があると思います。

木村：桂枝茯苓丸によって精神症状や視力が改善していますが、その点はどうに解釈されていますでしょうか。

呉：瘀血を取り除くことで、身体症状だけでなく、イライラ、不穏、不眠などの精神症状も改善することがあります。また、本症例のように瘀血が強い症例は、瘀血を取り除くことで視力の回復など様々な症状が改善することがあり、瘀血を改善することの重要性を実感しました。